A-Ⅱ-03　当院における人工呼吸器の安全管理活動

1)横浜市立大学付属病院　MEセンター　2) 横浜市立大学付属病院　集中治療部
並木　陽明[1)]、伊藤　洋[1)]、田中　千年[1)]、大高　勝義[1)]、
三浦　真樹[1)]、大塚　将秀[2)]、磨田　裕[2)]

人工呼吸器に関するインシデントが数多く発生し、各病院で様々な安全対策の工夫を施しているのが現状です。当院においても1999年度にインシデント事例が多数発生し、集中治療領域ではなく人工呼吸器の使用頻度の少ない一般病棟で多く、重大な事故に直結する事例もありました。その現状を改善するために、医療安全管理室、ICU医師、看護部、臨床工学技士で2000年9月に人工呼吸器プロジェクトが発足し、多くのインシデントの内容を確認しました。結果として知識不足で業務に携わっていたことが原因と考えられる事例が多くありました。

その対策として、内容をレベル別に1、2に分け、それぞれ講義と実習を階的に学習でき、また年間の開催スケジュールを前もって決めた、参加しやすい環境を整えた人工呼吸器セミナーを2001年3月から始めました。2001年4月からICU医師と共に、また2002年4月からは、ICU看護師がさらに加わり、3職種で行なう人工呼吸器ラウンドを1回／週、始めました。人工呼吸器は正常な動作か？・設定に問題は無いか？・加湿加湿は適正か？・万一に備え用手換気の準備は出来ているか等の確認を主に行います。さらに主治医から呼吸器の設定、ウィーニング方法や、病棟看護師から口腔ケア、気管内吸引方法などの質問も多く寄せられます。

その他では過去に人工呼吸器のトラブルが発生した際に円滑な対応が行われなかった経験から人工呼吸器の故障時対応マニュアルを作成しました．人工呼吸器に何か異変を感じた場合、まず用手換気に切り替え、その後の対応を示したものです。

また従来人工呼吸器の指示は投薬指示など他の指示と同じ記載用紙に記入していたため、呼吸器設定の指示確認が行いにくい面もありました。そこで人工呼吸器専用の時系列に記入する 見やすい指示票を作りました。

一般病棟で人工呼吸器のアラーム音が聞こえにくい又は、聞き逃すケースを何度か経験しました。しかし、ナースステーションに近い病室の確保や 部屋の扉を完全に閉めきらい事は、運用上や感染対策上、難しい場合があります。2003年～人工呼吸器がアラームを発生した場合、同時に使用するベッドサイドモニターを介し、ナースステーションのセントラルモニターにもアラームが発生する機能を持たせました。

これらの当院における安全活動を過去5年間行い、人工呼吸器に関連するインシデント発生件数の推移は、年々減少しています。しかしスタッフの入れ替わりなどもあり、その中で、さらにインンシデント件数を減少させるためには、この様な活動を 継続する必要性と共に、内容を見直しながら、さらに安全活動を進めていかなければなりません。